

学校法人いいづな学園 2023年度事業報告

【学園本部】

いいづな学園発足19年目を迎え、グリーン・ヒルズ小学校が国際バカロレア認定校となったと同時に、園児児童生徒数の減少および原資の枯渇という運営上の危機に直面した。加えて、教職員にとって公立教員との給与の差、学園内部手当の差などの問題点が浮上し、労働環境を含めた経営改善に着手した。

1, 持続発展可能な経営基盤の確立のための1年目として、以下の項目の実施について努めたが、遂行することがかなわなかった。特に、労働環境については次年度に向けて大きな課題となった。

- 1) 「いいづな学園教育の特色」「育てたい人物像」「いいづな学園ブランド」の追求と共有
- 2) 園児、児童、生徒募集の強化
- 3) 労働環境の改善
- 4) コンプライアンスの徹底とリスクマネジメント

2, 3年間の短期計画の策定について以下の項目の実施に努めたが、学校林の売却体制の整備、国際バカロレアPYPによる教育の質の向上についてのみ遂行できた。また、年度末に向けて厳しい資金状況により、セミナーハウスを担保として群馬銀行より2,500万円を借入れた。特に、運営体制と資金計画が大きな課題となり、コンサルタント的な人材の登用が求められた。

- 1) 運営体制の確立
- 2) 資金計画
- 3) 教育の質の向上を図る
- 4) 施設・設備計画の策定を行う

【こどもの森幼稚園】

1, こどもの森幼稚園教育目標

「命を慈しみ、命を育む」この目標を、「自然の恵み」「手作りの愛情」の2本の柱で支えている。当園は、飯綱山麓の豊かな自然の中でのあそびや散歩、田畑づくりなどの体験活動を通して、園児自らが五感を通して心身ともに豊かに育つ教育をめざしている。

➡信州型自然保育の特化型施設である強みを活かして野外での活動を中心に教育事業を展開し、保護者参加行事や子育て支援などもほぼ計画通り行った。

2, 重点目標

1) 自然体験を中心においた教育の充実を図る

2) 食育活動に力を入れる

→作物を育て、収穫し、調理する過程を通して、子どもに食への関心と興味の目を育てる

3) 園児、保護者及び教職員の対話の場を作り、人間関係の構築を目指す

→大人も子どもも、人種・思想・感情など様々な面で多様な観点を持っていることを踏まえ、園児、保護者及び教職員の対話の場を設けて人間関係の構築を目指す。

2,重点目標での取り組み評価と課題

1) 自然体験を中心においた教育の充実を図る

➡今年度も自然体験を継続的に行ってきた。また例年通り、自分たちが経験してきた活動をプロジェクト活動として主に年長児が卒園制作で劇として作り上げ、表現活動へつなげていった。しかし、春のヨモギ団子づくりでの食中毒や秋のベアスプレー噴射事故などがあり、自然体験での事故が多く発生してしまったことは大きな反省点であり、再発防止対策を職員全体で行った。

2) 食育活動に力を入れる

➡食育活動では幼稚園の畑の野菜の実りがよく、子どもたちが収穫した採れたての野菜を、即調理して食べることで、苦手なピーマン等の野菜を好きになった子が多くいたため、家庭でも喜ばれた。しかし、今年度初めて行った保護者を交えての大豆作りは害獣被害に遭ってしまい、収穫が出来なかった。また、お米作りでは雑草作業へ定期的に行くことが出来ず、雑草にお米がやれられてしまったため、お米の収穫が激減してしまった。

3) 園児、保護者及び教職員の対話の場を作り、人間関係の構築を目指す

➡毎年の課題となっていたが、今年度もなかなか保護者との対話の時間が持てなかったことや、上にも記載した園でのトラブルが続いたこともあり、保護者の方々からたくさんのご意見・苦情を頂いた。それをきっかけに保護者と職員で改善点を論議することで、お互いの価値観を理解し合いながら関係性を深めることが出来たように感じている。

4 保育・教育の質の向上と確保

1) 処遇改善加算による研修要件の充実

➡対象職員にはキャリアアップ研修の受講を依頼し、研修で学んだ内容を園内研修などで共有する機会を設けた。また今年度は発達支援が必要なお子さんを見ていく中で、どのように関わっていったらよいかを専門家の指導を仰ぐため、長野県立大学の前田泰弘先生を夏の園内研修にお招きした。記録方法や時短の先生たちとのミーティングの時間を多く設け、個の対応への質の向上を図った。

2) 自然教育課程の明確化

➡共育カリキュラム（年間指導計画）の見直しを新学期に職員間で行い、改めて自分たちの保育活動や行事などのやり方の見直しを行った。

3) つぼみ子育てサロンの活動内容の充実

➡つぼみ子育てサロンでは、会員獲得のために活動前の体験会を行い、前年度同様単発の参加形態でもお引き受けした。またつぼみ子育てサロンの会員数を増やすための対策として、0～1歳児向けの「ふたばルーム」を開催し、「野愛」での読み聞かせや相談業務などの子育て応援団（支援）を行い、つぼみの入会につなげる機会となった。

4) ICT化の実用と充実

2022年度にICT化補助金を利用して導入した、アプリと各種端末を使いこなすために、全職員の質の向上を図る。

➡LaySerkidsアプリを導入で職員の作業効率があがり、職務削減につながっている。

➡Googleの活用により、職員間が顔を合わさなくてもコミュニケーションが取れるようになり、どこでも話し合いなどが行えて職員間の情報共有がスムーズになった。

5,保護者とのコミュニケーションの確保と関係の向上

➡保護者とのコミュニケーションツールとして、ICT化補助金を利用してアプリを導入。2023年度は利用のためのルール策定、保護者職員の声を開発者につなげるなどより発展的に展開させた。

➡参加日の懇談会では、保育者からの一方的な発表だけでなく、保護者の意見を聴きながら対話的に展開する手法も取り入れた。

➡保護者会（どんぐりの会）主体の自主的班活動では、引き続き、保護者同士の交流、相談などを通して絆を深めながら、園活動へご協力いただいた。特にお料理日などでは洗い物の際に保護者にお手伝いを頂き、大変助かった。

6 ,地域との連携及び貢献

一の鳥居、森の駅、づなっち広場の利用

➡身近な環境資源、施設資源を活かしてきた。

7,園児・児童・生徒募集計画

➡2022年度に引き続き、2023年度園児募集も定員割れとなった。

8,学園内接続、幼小連携

➡学園内では学園フェスティバル、リンゴ狩りなどの交流を行った。また、コロナ禍で二年ほど実施できなかった、城山小学校と本園、善光寺保育園、パドマ幼稚園の各校三園での合同連携を今年度より再開した。

9,施設、備品整備計画

・施設周辺整備

➡幼稚園周辺道路については、地域の芋井支所・芋井地区住民協議会・芋井地区交通安全協会のご協力をいただいて電柱幕を3枚設置し、県道路管理課には道路への徐行ペインティングを施工していただいた。また、園庭内の安全対策強化として駐車場入り口にバリケードを設置した。

・送迎バスの安全対策の強化

➡送迎バス安全対策として園児取り残し防止装置の取り付けを行った。

➡幼児用安全ベルトへの寄付を募集し購入。全園児は指定の席を設け、乗車時には保護者に安全ベルトの調整を行ってもらい、着用することを義務付けた。

➡送迎バスの運転業務を株式会社長野タクシーに委託し、職員の負担軽減を図った。

・農機具小屋の整備

➡廃園となった園から大きな物置小屋を頂くことができたので、保護者にお手伝いを頂き、運搬して園庭に設置した。また長く使えるように、保護者作業日に塗装を手伝っていただいた。

10,働き方改革への取り組み

➡引き続き、残業が出ないように時短職員にお手伝いいただきながら活動準備を行った。また、引き続き送迎終了後の在宅勤務の取組も行なった。

【次年度への課題】

- ・園児が減少傾向にある中で、今後のこどもの森幼稚園の在り方については、新入園児の定員数確保を最優先に考えなければならない。その為に、共働き家庭へのフォローが必要であり、預かり保育の拡充や二歳児保育などを視野にいれることを踏まえ、認定こども園への移行を検討するため、長野市との交渉を行っていく。
- ・学園全体の経営の立て直しを図るために、理事会より推薦された新園長の仁科里佳子氏と共にこどもの森幼稚園の新たな新体制を創るべく、教職員間で次年度ミーティングを開催し、再スタートをする。
- ・一般入園者獲得のため、ホームページやInstagramなどのSNSを活用し、外部へ発信する広報活動を積極的に行う。
- ・市内での広報活動を行う。
- ・飯綱町や信濃町とも連携し、移住者をターゲットにした広報活動を随時行う。
- ・つぼみ子育てサロン、ふたばルームの内容を見直し、入会してもらえるような企画を教職員間で話し合い、活動を充実させていく。

【グリーン・ヒルズ】

1. 2023年度グリーン・ヒルズ運営の視点と具体的な取組

- (1) グリーン・ヒルズのアイデンティティ
- (2) 教育者としてのプライド
- (3) シンプルで上質

2. 課題への取組

(1) 基礎学力の定着と指導力育成

- ① 二人担任制
- ② 学習指導要領の意識化
- ③ 経験豊富な実績ある教育アドバイザーの参画

(2) 働きやすい職場環境及び残業時間の削減

- ① フレックス出勤時刻制の導入
- ② 二学期制継続実施
- ③ 金曜日午後の授業外部委託（クラブ活動へ）
- ④ 会議資料・検討資料のペーパーレス化促進

(3) チームとしての職員集団の連帯感促進

- ① 勤務時間開始と共にスタートする職員朝会
- ② 職員及び来校者の動きを知る月曆の共有
- ③ 非常勤講師との関係づくりの場の促進

(4) 児童生徒数の増加策

- ① 長野市主催企画「NAGA KNOCK！」への参画
- ② 長野県主催首都圏への売り込みイベントへの参加
- ③ 各種メディアへの働きかけと表出
- ④ 幼稚園・保育園への広報（イベントちらし配布依頼）
- ⑤ 学校開放日（Open Day）の実施（2回）
- ⑥ 行政・NPO（ふるさと回帰センター）との連携
- ⑨ GH通信及び各種公開イベントの芋生地区回覧依頼

(5) 国際バカロレアPYP認定校資格取得

- ① 国際バカロレア指導専門家の招聘
- ② IB先進校の参観
- ③ 研修会の定期的な実施
- ④ IBコーディネータ、コンサルタントの配置調整
- ⑤ 若草幼稚園（認定校）、松本国際高校（認定校）との連携

(6) 保護者との関係づくり

- ① 3者面談の実施
- ② 自由に参観できる授業参観Dayの実施
- ③ グリーン・カフェ（保護者との懇談の場）、GH通信の発行
- ④ 課題をもつ保護者との個別懇談

(7) 教育・指導環境の見直し

- ① グリーン・ヒルズ内会計の在り方の見直しと透明化
・学級活動費、資源回収、写真販売、補助金事業等
- ② 小中学校併設による日課、指導の見直し
- ③ 安全管理

- ・校外学習等における子ども送迎の運転
- ・避難経路の見直し

④地域との連携

- ・飯綱観光協会、NPO法人よっこらしょ、アソビーバ（中央タクシー）、森の駅（エターナルストーリー）、等との連携の模索
- ・飯綱西区、芋井地区住民自治協議会との関係づくり

3. 評価

(1) 基礎学力の定着と指導力育成	★★★	向上
(2) 働きやすい職場環境及び残業時間の削減	★★★★	ほぼ達成
(3) チームとしての職員集団の連帯感促進	★★★★	ほぼ達成
(4) 児童生徒数の増加策	★★	途上
(5) 国際バカロレアPYP認定校資格取得	★★★★★	達成
(6) 保護者との関係づくり	★★★	向上
(7) 教育・指導環境の見直し	★★★	向上

〈 残された課題 〉

- ・学習指導要領を意識しない教育方針下で勤務してきた職員の力量の向上
- ・学習指導要領を意識しない教育方針下で学年を重ねている児童生徒の基礎学力の定着
- ・フリースクールとして地域や市内で認知されてきたグリーン・ヒルズの評価の転換
- ・学校教育方針の転換に納得できない保護者との関係づくり
- ・中学校教育の存在意義
- ・人数増加に対応する校舎施設
- ・国際バカロレア認定校に相応しい教職員の待遇
- ・質の良い教育に必要な最低限の教育教材及び教育環境を保障する資金と予算